

「だろう」「かもしれない」「はず」に関する研究

— 「겠(지)(-gess(ji))」「ㄹ것(-lgeos)」「지도모르다(-ji(do) moleuda)」との比較—

권 성

(e-mail: gabana83@hotmail.com)

目次

- 1.研究の動機と目的
 - 2.先行研究
 - 3.調査概要
 - 4.考察
 - 5.結論
- 【参考文献】
-

1.研究の動機と目的

韓国人日本語学習者は日本語を習う際に類似している推測表現が多く以下のような誤用例が見られる。

誤用例1)今、息子は二歳で、これからは教育を受けるじきだが、来年帰国すれば、多分遅れないかもしれない(→だろう)。市川保子(2005)

誤用例2)かなりひどい台風だから、彼はこないはず(→にちがいない/のだろう)だ。

市川保子(2005)

また、大島(1993:97)では、日本語学習者(韓国人と中国人)がモダリティの表現(「だろう」「かもしれない」「ようだ」「みたいだ」「らしい」)をどのように習得しているのかを見ているが、日本人が推量の形式を選択する例文にあっても、学習者は「確言」を選択する場合があります。また「だろう」と「かもしれない」の区別が日本人ほどには明確でないとしている。大島(1993)の結果から見ると、日本語学習者は「ようだ」「らしい」だけではなく、他の認識モダリティ表現についても理解しておく必要があると言える。そこで、三つの形式の本質である推測という観点から同じ推測でありながらどのような点で異なるのかを考察する。また、「だろう」(「ㄹ(지)(-gess(ji))」)、「かもしれない」(「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」)、「はず」(「ㄷ(지)(-lgeos)」)とこれらに対応している韓国語の形式を比較して日本語の三つの形式と韓国語の三つの形式の共通点と相違点を考察することを目的とした。

2. 先行研究

2.1 「だろう」の先行研究

寺村(1984:227)では、「ダロウは、自分がこうだと考えるということについて、自分自身は当然何かの拠りどころをもっているのがふつうだが、そのことを相手に知らせる意識はないときに出てくる表現である。その意味で、根拠があることを相手にほのめかす類の表現と比べて単純で、また最も主観的ということが出来る。その推量の根拠は、ふつうは自分のこれまでの経験、知識の総合である」と述べている。また、大鹿(1993:22-23)では、「「……だろう」はあくまで推量の結果を表すのであって、どのように推量したかというその過程にはかかわらないのである。「……だろう」を「……かもしれない／……にちがいない」の文と較べたとき、「……かもしれない／……にちがいない」の方は言えるのに、「……だろう」が不自然になる文として、「ぼくは部屋を出るとき鍵をかけただろう(でしょう)。」と「(車を運転していて、急に渋滞に巻き込まれたというような場合)この先工事をしているだろう」がある」としている。

上の説明では「この先工事しているだろう」が不自然な文になるのは「推量の結果間接的に認識された事実」ではないからであると思われるが、話し手が昨日から工事が始まるということを知っていたり、見たら工事をしていて今朝も渋滞だったなどのことを知っているというような既知の事実根拠している例文には「だろう」が使えろと考えられる。この場合に「かもしれない」や「にちがいない」も使えろと思われるが、そのときの違いについては言及されていないようである。つまり、「だろう」以外の形式も使えろ場合に推測するための根拠がどうなっているのかまでは述べられていない。

三宅(1995:84-85)では、「「推量」は「話し手の想像の中で命題を真であると認識する」と定義し、「現実の世界ではなく、想像の世界において命題をとらえるという点が推量の基本的な特徴である」としている。また、三宅(1995:81-82)では、「「かもしれない」は命題の不確実性という点においては、可能性判断は推量と同じ性質を共有していることになる。「だろう」と違う点として可能性判断は、一つの可能性として真であればよいのであるから、同時に真であることができない命題を並べて述べるができることである」としている。

三宅(1995)は「「だろう」を推量の形式であると見て「話し手の想像の中で命題を真であると認識する」と言っているが、想像の中での判断でも何かの根拠はあるはずであろう。しかし、三宅(1995)では、「「だろう」と他の形式(「かもしれない」や「はず」など)は命題の不確実性という点で同じ性質を持っている」と述べながら、「だろう」と他の形式において話し手が判断するための根拠のことについては述べられていない。

서정수(1996)では、モダリティを「叙法」といい、「話者が発話文章の内容に対して持つ精神的な態度である」と定義している。すなわち、「人間が話すときはその内容に関連して自身の主観的な態度を付与するようになるが、このような態度を表す文法的な範疇のことである」とし、「「だろう」を韓国語の文末表現である「ㄹ다(-gessda)」だけに対応している」と述べている。

しかし、「モダリティ」は文法範疇を超えているものなので「モダリティ」を「叙法」という文法範疇だけから説明するのは妥当性がないと考えられる。また、「だろう」が「ㄹ다(-gessda)」だけに対応しているという説明は、文法的な範疇という観点だけから見ているためであると思われる。

以上「だろう」の先行研究を見ると、「だろう」は「断定を避ける」や「現実界ではなく想像の中での判断」という説明があったが、両方正しい説明であると思われる。しかし、両方の場合を含めて推量を表す際に他の形式との比較が詳しくされておらず、判断するための根拠についても述べられていないため日本語教育への応用が難しいと思われる。

2.2 「かもしれない」の先行研究

寺村(1984:235)では、「ダロウと同じく、自分の主観による単純な推量を表す。ダロウとの違いはその推量の妥当性についての確信の度合いが低いことであろう」と述べている。また、宮崎他(2002:145)では「「かもしれない」はあくまでも、「可能性がある」という認識を表す形式であって、「可能性が低い」という認識を表すわけではない」としている。

寺村(1984)と宮崎他(2002)では、確信度の違いだけの説明で「研究の動機と目的」であげた誤用例の説明が付かない。

黄(2006:60-66)では、「断定できる事柄に対して、非断定的な表現を使うことによ

て、対話を丁寧にすることが考えられるのである」とし、想定、反論、擬似的同意、表明回避、評価に分けて説明している。黄(2006)では、次の例をあげ、「相手と共有する事柄や現象に対して自分の意見や評価などを述べる際に、聞き手に主観的な印象を与えないため、言い切るのを避け、不確かな言い方で話を丁寧にする表現である」とし、特に、「客観的な立場を示したい場合によく現れる」と述べている。

例1)ちょっと待って、今山田君が言ったそのアイデア、ちょっとおもしろいかもしれないよ。

黄(2006:65)

例1)では「かもしれない」が使われると不確か言い方になって話を丁寧にしているとは思われるが、話し手が自分が言った意見に責任を回避しているとも捉えられると思われる。

羅聖栄(1999:39-40)では、「かもしれない」は話者の主観による判断である。この際、命題が真である可能性に対する話者の確信度は低い。「かもしれない」は客観的な根拠がなく、話者の主観的な判断によってある可能性があるということを表す確信度が低い認識表現であるため、他の可能性もあることを意識している心的態度が含まれている」と述べている。

婉曲表現として使われることもあると述べているが、説明だけで具体的には触れていないようである。また、韓国語との対照で「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」と対応しているという説明だけで韓国語とどのように違うかまでは説明されていない。

以上「かもしれない」の先行研究を見ると、「かもしれない」は可能性を表す表現であるという説明が中心になっているため、婉曲用法まで充分記述されていないと思われる。また、いつ可能性を表わしたらいいのかななどの説明がないため、「かもしれない」が使われるところに「だろう」などの他の推測表現を使って不自然な日本語を話してしまった場合、教師が依拠するものがなく説明に困ることもあると思われる。

2.3 「はず」の先行研究

太田(2005)では、次の3つの考え方により、ハズダの機能を文脈の中で記述している。「一つ目はハズダの用いられる状況は、現実の状態とハズダによって示される認識との関係から「Ⅰ. 現実の状態が未確認 Ⅱ. 不一致が確認済み Ⅲ. 一致が確認済み」の3種類に大別できる」としている。「二つ目はそのそれぞれの状況において、話し手がどのように認識を表明するかを見ることで、ハズダの機能は6つに分けられる」としている。「三つ目はその6つの機能が、話し手と聞き手の関係などにより、様々な伝達効果となって実現する」と述べている。この中で現実の状態が未確認である場合を見てみると以下のようになる。

例2) 「フェリー乗り場ですか。わたしもよくわからないんですが…。ああ。あそこにサインが出ているからあの近くにあるはずですよ。」 太田(2005:117)

太田(2005:117)では、「話し手の命題に対する態度は直接的な回答は持たないが、自分なりの判断を表明しようとする。既得情報から演繹的に判断しうる命題を導き出して表明する機能を持っている」と述べている。「伝達効果としては「未確認の中での回答提示」と「論理的な考察の過程の提示」でそれぞれ聞き手との関係は「聞き手からの質問、または状況的に答えが要請されている場合」と「自分の考えを支える論拠を聞き手に説明する必要がある」と述べている。

しかし、例2)のように未確認の中での回答提示にも論理的な考察の過程の提示の効果はあると思われる。また、「答えが要請される」か「聞き手に説明する必要があるか」の二つの違いが曖昧である。

また、太田(2005)では、「「はず」を直接には現実の状況は未確認ではあるものの、既存知識として確信している事柄を述べる際に用いられる」としている。

例3) 「妻が家にいるはずですよ。すぐに持ってこさせましょう。」 太田(2005:118)

この例文は「命題に強い妥当性を感じている」と説明し、「「自らの認識を確信のあるものとして提示する」機能がある」としている。「伝達効果としては「主張」と「励まし」があってそれぞれ聞き手との関係は「話し手の考えを妥当性のあるものとして相手に示したい」場合と「相手にとって望ましい展開を提示する場合」がある」としている。

太田(2005)では、「話し手が知らないことを、発話時に既得情報から導き出して述べる場合」と「直接には現実の状況は未確認ではあるものの、既存知識として確信している事柄を述べる際に用いられる場合」に分けて説明しているが、説明が曖昧で二つの場合の違いがはっきりしていないようである。

木下(1997:165)では、「ハズダは「推論の帰結」を表す」とし、「「推論」に二つの特徴、即ち「推論」の成立には例外的事態については考えないという「前提E」が関与すること、「推論」にはただ一つの帰結が得られる場合とそうでない場合があることを認める」としている。そして、「ハズダの意味を<a>根拠pと帰結qは「推論」関係にある、ハズダは命題が帰結qであることを標示する、<c>根拠qからはただ一つの帰結が得られる、<d>「前提E」(推論が成立するためには、特別な事態が全て生じないという前提が必要であるが、このような前提(「前提E」である)の存在が意識されているという四つの意味特徴」によって説明している。

木下(1997)でのハズダの意味特徴の四つは「かもしれない」には当てはまらないと思われるが、「だろう」には当てはまると考えられる。しかし、木下(1997)では、「だろう」は

過去形や否定形にならず、話し手以外の人の心的態度を表わすこともなく、恒常的に話し手の主観を表す形式であって他の形式とは大きく異なる意味を持つことが予想されるため、ハズダとの比較を行っていない。「だろう」が話し手の主観を表す形式であれば、「はず」と重なる部分はあると思われるため「だろう」との比較も必要であると言える。

金良宣(2004:84)では、発話内容に対する話者の態度である「話者の確信の強弱」「発話内容における必然性の有無」「発話内容についての根拠の100%・有・無」などにより、「はず」を次の例文が示すような4つのグループに分類している。

例4)このこはこの部屋を愛しているのだから、この部屋でとれたきのこをおいしいと思うはずなのに、と溜息をついてきのこを床に捨てた。
金良宣(2004:86)

例4)は「命題の実現する可能性は低くて話し手の確信度は高い」とし、「必然性はあるが、客観的な根拠はない場合である」としている。

金良宣(2004)での説明はどの根拠を客観的な根拠として見ればいいのかが分からないように思える。例4)でも話し手にとっては客観的な根拠を持っていると思われる。また、確信の強弱について述べているが、例えば「だろう」にも確信度が高い文と低い文があると考えられる。

「はず」の先行研究では「推論の帰結である」や「客観的な根拠を持って推論する」というような説明が多く、「はず」に接続する形式や機能についての説明だけで他のモダリティ形式との区別が難しいと思われる。つまり、「はず」を持って表現するときに話し手はどこから情報を得てどれを根拠にしているのかなどまでは述べられていないようである。

以上、先行研究を見てきたが、それぞれの形式だけについての説明で他の形式とはどのように似ていてどのように異なるのかなどの比較がされていない点と判断するための根拠がどうなっているのかが説明されていない点が先行研究の大きい問題点である。

2.4 「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」の先行研究

이선영(2006:24-25)では、「「-(으)르지 모르다(-eu)lji moleuda)」を漠然とした疑問に知らない話者の態度まで加えられて話者の発話内容についての確信は低い程度を表わすことになる」としている。이선영(2006:24-25)では、確信度と教科書で他の推測表現と比べて出現する頻度が低いという説明だけで文の中で他の推測表現とどのように異なるのかまでは述べられていない。이순룡(2011:59-60)では、「「-(으)르지 모르다(-eu)lji moleuda)」は命題について確実ではないが、恐らくそうであろうと思う推測である。また、他の可能性を排除できないので確信度が低い」としている。이순룡(2011:50)でも他の推測表現の違いを確信度や主観性が一番高い表現であるという説明だけで述べ

ている。また、羅聖榮(1999:51)では、「「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」は確信度が低い推測表現で婉曲表現で使用できると言える」という説明だけで詳しくは述べられていない。このように、従来の「지도모르다(-ji(do) moleuda)」についての研究は確信度が低いという説明だけで他の推測表現との比較や婉曲を表す場合については述べられていないことが問題点である。

2.5 「ㄹ(ress)」と「ㄹ(ress)」の先行研究

고창운(1991:603)では、「「ㄹ(ress)」は話し手が持っている根拠は聞き手も持っているという信念を表現するときに使用され、「ㄹ(ress-i)」は話し手が持っている根拠を聞き手は持っていないという信念を表現するときに使用される」と主張している。박현주(2011:2-5)では、「他の推測表現に比べると「ㄹ(ress)」が一番よく使われ、聞き手が判断の情報となる情報を共有しているときに、「ㄹ(ress)」を使用して、話し手だけが情報を持っている場合に「ㄹ(ress)」を使用する」としている。また、김동욱(1999:152)では「「ㄹ(ress-ida)」は、話し手の情報量が聞き手より優位にあることを前提とする「話者優位」の推量の意を表すことができる」としている。

従来の「ㄹ(ress)」と「ㄹ(ress)」の研究は情報を話し手だけが持つか話し手と聞き手が持つかによって論議されている研究が多いが、これは一つの機能の説明で二つの形式を区別する基準にはならないと考えられる。このように、二つ形式の比較に妥当性がないのが先行研究の問題点である。

3. 調査概要

3.1 「かもしれない」についての韓国人日本語学習者の誤用調査

日本語では間接的な表現を使う傾向があるようであり、「だろう」や「はず」を使ってもいいようなところまで「かもしれない」を使っていると考えられる。そこで学習者はこのような表明や責任回避の用法が学習出来ているのかを見るために次のような調査を行った。調査対象は韓国人学習者10人(22歳から24歳の大学生でレベルは大学生の3年生以上である)で調査方法は「かもしれない」が使われている文で「だろう」に置き換えてもいいような文を取り出して「かもしれない」の部分为空欄にした。そして、穴埋めテストを行い、「だろう」「かもしれない」「はず」の形式の中で一つを選んで下さいと指示した。また、どの形式も入らないと判断したときは空欄のままでもいいと指示した。二つの調査文を見ることにする。

調査文1) 「そうかなー。もしかしら彼女は、恋愛とか結婚とか諦めてたかもしれない。本

来見ない夢見させて、俺はただ人がいいから優しくしてただけですなんて、それじゃ可哀想だよ。」 「直哉の言うことも、一理ある_____。」

【表1】 韓国人学習者の選択結果

	だろう	かもしれない	はず	断言
人数	4	0	0	6

調査文2) 「こちらの派遣会社は主婦の登録が多いと聞いて伺いました。」 「何か技術を持っていたり得意なことはありますか？」とスタッフ。「いいえ。とくにありません。事務職以外に出来ることがないと思うのでパソコンの勉強中です。」 「仕事をしながら得意なことを見つけていくという方も多いので決め付けられない方がいい_____。」

【表2】 韓国人学習者の選択結果

	だろう	かもしれない	はず	断言
人数	8	2	0	0

調査結果は、韓国人学習者は「かもしれない」より「だろう」や「断言」の形式を選んでいるところを見ると、「かもしれない」(「だろう」や「断言」よりは間接的な表現である)を使うことについては学習できていないようである。学習者は「かもしれない」については単なる可能性を表わす表現であると理解しているようである。

3.2 「ㄹ지(-gess-ji)」と「ㄹ 것(-l geos)」についての調査

「ㄹ지(-gess-ji)」と「ㄹ 것(-l geos)」が使われている場合どのようなニュアンスで異なるのかを見るために筆者が場面を設定し、韓国人母語話者10人に作例(5文)を見せて二つの形式が使われているときにどのようなニュアンスになるのかを聞いてみた。また、その理由のコメントは一つ以上でもいいと提示した。調査文3)と4)を見てみる。

調査文3)：友達が引越しをすることになったが、手伝う人がいなく一人で引越しをしたという話をしている。

A： 혼자서(一人で) 이사했다는데(引越したそうだけど) 괜찮았을까(大丈夫だったかな)?

B： 大変だった_____。

· 힘들었ㄹ지(-gess-ji)： 「その友達とあまり親しくなくて大変だったのかどうかに興味を持っていない(5人)」、 「一人だから大変なのは当たり前(6人)」

· 힘들었을 거(-l geo)야. : 「一人で引越しは大変だから(2人)」、「その友達が大変だったのを心配している(6人)」、「引越しの手伝いが出来なかったのを悪いと思っている(2人)」

調査文4) : AとBは韓国料理店にご飯を食べに行った。よく聞こえてはいないが、他のお客さんが韓国語のような言葉を話しているし、辛いものも注文して食べているのをAが見てBに聞く。

A : 저(あの) 사람들(人たち) 한국인(韓国人) 같(みたい)지(じゃ) 않(な)아(い).

B : 韓国人_____。

· 한국사람 이겠지(-gess-ji) : 「韓国語のようなことを話しているから(8人)」、「あの人が韓国人かどうかには興味なく友達の質問に答えただけである(4人)」

· 한국사람 일 거(-l geo)야. : 「辛いものを注文しているし、韓国語のようなことを話しているから(8人)」、「友達と韓国人なのかどうかの話題で話しているとき(3人)」

調査結果は、ある文で「겠지(-gess-ji)」を使うことで話し手はいくつかの情報を持っていても深く推測する気はなく認識しやすい情報だけを持って判断していることを表すことができるようである。それに対して「ㄷ 것(-l geos)」を使うことで話し手はいくつかの情報(話し手が持っている客観的な事実の情報や知識と経験による確実な情報もあるが、話し手の中で推測してこうであろうと判断したことも推測するための情報になると考えられる)を持っていてそれを全部根拠にして深く推論をしていることを表すことができるようである。つまり、「ㄷ 것(-l geos)」を使うことで推し量るというプロセスが積極的に働いていることを表せると考えられる。

3.3シナリオ分析

日本のドラマの台本(32本)で三つの形式の推量用法の場合の文を全部取り出した。その中で推量文60文を日本語母語話者15人に他の形式で置き換えられるかどうかを判断してもらい、なぜ自然なのかあるいはなぜ不自然なのかのコメントももらった。分析をする際にある事柄についての推測か人についての推測かに分け(話し手自身を「一人称」、聞き手を「二人称」、第三者を「三人称」とした)、さらに話し手が情報を得やすいか得にくいかに中間であるかに分けて分析を行った。情報を分ける基準は「状況(話し手が情報をいつどのように得たのかと何についての判断なのか)」と「話し手はどのような人物なのかや聞き手との関わり(あることについてよく知っている専門家は情報が得やすくなる)」と「話し手が判断しているのは事態についてのことか内的感情感覚についてのことか(内的感情感覚は情報が得にくくなる)」によって分けて考察を行った。また、日本のドラマを翻訳している韓国の翻訳サイトの翻訳本から韓国語との対照分析も行った。「だろう」2026文の中「ㄷ

(지)(-gess(ji))」が293で文「ㄷㄹ(-l geos)」が238文であり、「かもしれない」905文の中「지도모르다(-ji(do) moleuda)」が798文であり、「はず」379文の中「ㄷㄹ(-gess(ji))」が17文で「ㄷㄹ(-l geos)」が148文であった。今回の調査では日本語の三つの形式が推量用法で使われている場合だけを取り上げることにし、例えば「だろう」の確認・同意要求用法などは対象外にした。また、韓国語の「ㄷㄹ(-gess(ji))」と「ㄷㄹ(-l geos)」以外の形式で翻訳されている形式も対象外にした。少ない数ではあるが、このような形式についても今後考察していく必要があると思う。調査対象は日本語母語話者は15人で、20代の学生(大学生5人、大学院生3人)と30代の社会人7人に判定してもらった。次に具体的な例文を見ながら考察してみることにする。

4. 考察

4.1 事態の場合

4.1.1 情報が得にくいと考えられる場合

4.1.1.1 「だろう」文

例1) 「59年も連勝し続けるってすごいプレッシャだよな。それはそれで大変なんだろうな。」 그건 그거대로 힘들었ㄷㄹ(-gess)다. (1リトルの涙)

【表3】日本語母語話者が判断した結果

	自然	不自然
「かもしれない」	15	0
「はず」	2	13

例2) 「麻生くん！麻生君ちの犬？」 「池内んちの犬？」 「それじゃ、やっぱ迷子か。」 「捨てられたんだろう。首輪してないし。」 버려진ㄷㄹ(-l-geo)야.(1リトルの涙)

【表4】日本語母語話者が判断した結果

	自然	不自然
「かもしれない」	15	0
「はず」	1	14

例1)と例2)のように話し手が情報を得にくいと考えられる「情報を得たばかりの場面」や「初めて出会った場面」や「単なる話し手の中での考えを表す場面」などでは「はず」は使いにくくなり、「だろう」や「かもしれない」が使われるようである。事態について推測する場合に情報が得にくい場面は少なかったが、例2)のように日本語では「はず」が使えないところに韓国語では「ㄴ 것(-l geos)」が使われている場合があった。

4.1.1.2 「かもしれない」文

例3) 「難しい病気だけど、出来ることはいっぱいあるんだから。亜也が頑張っているうちに、特効薬や、治療法が見つかるかもしれない。」 아야가 열심히 버티는 사이에 특효약이나 치료법이 나올지도 몰라(-ji(do) molla). (1リトルの涙)

【表5】日本語母語話者が判断した結果

	自然	不自然
「だろう」	0	15
「はず」	0	15

話し手は全く根拠を持っておらず単なる可能性を表す場合には「かもしれない」は使えるが、「だろう」は使えないようであり、韓国語でも「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」が使われている。

例4) 「輝明おじちゃん全部暗記してるよ。」 「すごいでしょ。」 「冗談はやめて下さい。」 「冗談じゃないよ。試してみたら？ 今日輝明おじちゃん仕事休みだから。それを覚えるの、東大に入るより難しいかもよ。」 그거 외우는 게 도쿄대에 들어가는 것보다 어려울 거(-l geo)야. (僕の歩く道)

しかし、例4)のように「かもしれない」が使われているところに韓国語では「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」以外の表現が使用される場合もあった。

4.1.2 情報が得やすいと考えられる場合。

4.1.2.1 「だろう」文

例5) 「新川の件、他の被害者の情報も用意してくれ。それから休眠会社が欲しい。当座預金を持っているのが条件で。設立は、10年以上もあれば、信頼されるだろう。」と黒崎。 설립은 10년 이내라면 신용 되겠(-gess)군. (クロサギ)

【表6】日本語母語話者が判断した結果

	自然	不自然
「かもしれない」	9	6
「はず」	12	3

上の例では頼む人が確実な情報(確実ではなくても話し手の判断である程度確信を持っている情報)を示さないと頼まれる人は「情報の用意」ができないと思われる。「かもしれない」が使えないわけではないが、「かもしれない」を使うと話し手は自分の情報に確信を持っていないかそれほど自信を持っていないように見える可能性があると考えられる。韓国語では「ㄹ (geoss)」が使われているが、次の例6)では「ㄹ (-l geos)」が使われている。

例6) 「テロリストたちはウイルスを持っている。そして敷村教授を誘拐し、ウイルスから身を守る方法を知った。」 「ワクチン?」 「いや、違うだろう。」 아닐거(-l geo)야.

(ブラッディマンデイ)

話し手はワクチンについてよく知っている人物のようであり、聞き手の判断を否定している場面である。話し手はかなりの情報や根拠を持っていると考えられるが、同じ場面でも日本語では「だろう」が使われ、韓国語では確信する形式である「ㄹ (-l geos)」が現れている。

4.1.2.2 「はず」文

例7) 「矢島さんは自ら命を絶った。つまり自殺したんだ。」 「でも自殺だったらあんな状態にならないはずです!」 하지만 자살이라면 그런 상태가 안 될거(-l geo)예요. (ガリレオ)

【表7】日本語母語話者が判断した結果

	自然	不自然
「だろう」	15	0
「かもしれない」	2	13

このように話し手がかなりの情報や根拠を持っていると考えられるときの「はず」文はほとんど「ㄹ (-l geos)」が使われていた。

例8) 「シミュレーション完了です!爆心地絞れました!」 「風の方向性、人口密集、被

害の規模を考えると、この3箇所に設置された可能性が高いはずです。」이 세 장소에 설치되었을 가능성이 높아요. (ブラッディマンディ)

例8)では、話し手は中性子爆弾についてよく知っている人物であると考えられ、「風の方向性、人口密集、被害の規模」を考えて判断している場面であるが、韓国語では「ㄷ 것(-l geos)」ではなく、断言している。

4.1.3ある程度情報が得られると考えられる場合

4.1.3.1 「だろう」文

例9)佐藤「同じ考えで買う人が増えて株価が上がるだろう。そうしたら、仕手戦仕掛けた犯人が高値で売って利益を得るんだよ。」雪平「そこでの競られて買った人達はどうかの？」佐藤「株価がピークを乗り越せば物凄い勢いで元の値に近づくから、大損だろう。」주식가가 피크를 앞당겨진다면 굉장한 속도로 원래 가격에 가까워질 테니 큰 손해를 보겠지(-gess-ji). (クロサギ)

【表8】日本語母語話者が判断した結果

	自然	不自然
「かもしれない」	9	6
「はず」	12	3

例9)では「はず」が使えないわけではないと考えられる。話し手が聞き手に説明している場面で自分の意見を主張しているとも言える場面では「だろう」や「はず」を使った方が聞き手を理解させたり、説得したりする効果が出ると考えられる。韓国語では「ㄷ(-gess)」が使われているが、話し手はある程度の情報しか得られていない場面なので「ㄷ 것(-l geos)」を使うと「ㄷ(-gess)」を使うよりは不自然な文になると考えられる。

4.1.3.2 「かもしれない」文

例10)「何か技術を持っていたり得意なことはありますか？」とスタッフ。「いいえ。とくにありません。事務職以外に出来ることがないと思うのでパソコンの勉強中です。」「仕事をしながら得意なことを見つけていくという方も多いので決め付けない方がいいかもしれないですね。」「でも、まずは事務職をお願いします。」일 하면서 특기를 찾아가는 분들도 많으시기 때문에 정해 놓지 않는 편이 좋겠(-gess)네요. (アラウンド40)

【表9】日本語母語話者が判断した結果

	自然	不自然
「だろう」	6	9
「はず」	0	15

自分はそう思っていてある程度情報を持っていても本当にそれが正しいのかどうか分からなく責任を取りたくないの「かもしれない」が自然であるというコメントがあった。韓国語では「ㄹ(=gess)」が使われている。

例11) 「初めて会った時は、コイツまじかよって思いました。でもあれ、全部本心なんですよ。本気で言ってるの。ある意味貴重かも。」 어떤 의미로 보면 참 귀하죠(-jyo).
(クロサギ)

例11)も話し手が責任を回避していると考えられる場面であるが、韓国語では断定をしている。

4.1.3.3 「はず」文

例12) 「発信場所は東京タワーから半径 3 KM以内。」 「その以内で夕日を背にして東京タワーの見える場所は？」 「少なくとも 4 千件以上です。」 「今日の日の入りの時間は？」 「午後 4 時 5 3 分です。」 「しらみつぶしに調べろ！」 「はい！」 「お前、何だよ。」 「すみません、電話して。」 「失敗ですね。」 「内部通告者のせいだ。岩崎書房に裏切り者がいるはずだ！」 내부 고발이야. 이와사키서점에 배신자가 있을 거(-l geo)야.
(アンフェア)

【表10】日本語母語話者が判断した結果

	自然	不自然
「だろう」	15	0
「かもしれない」	15	0

文脈には「はず」を使うまでの根拠は出ていないようであるが、話し手は事件についてよく知っている人物であると考えられる。そのため「はず」が使われていると考えられる。

4.2 一人称の場合

4.2.1 情報が得にくいと考えられる場合

4.2.1.1 「だろう」文と「かもしれない」文と「はず」文

例13) 「みんなの泣き顔が涙でぼやけた。きっと私は、こんな些細なことで、死ぬのだろう。」
 분명 나는 이런 사소한 일로 죽게 되겠지(-gess-ji). (1リトルの涙)

【表11】日本語母語話者が判断した結果

	自然	不自然
「かもしれない」	15	0
「はず」	0	15

例14) 「目を閉じて、次の日が来るのがこわい。朝が来て、悪くなっているかもしれないと思うのが怖い。時間がたつのが、こわい。」아침이 되어서 더 나빠졌을 지도모른다(-ji(do) moleu-nda)는 생각이 드는 것이 무서워. (1リトルの涙)

【表12】日本語母語話者が判断した結果

	自然	不自然
「だろう」	14	1
「はず」	0	15

一人称の場合は自分のことなので情報が得やすいと思われ、断言してもいいように見えるが、上例のように未来の予想できないこと、すなわち未来の一人称の事態については情報が得られにくくなり推測の形式を使った方がいいと思われる。

例15) 「1ヶ月も真面目に勉強するなんて生まれて初めてじゃん。次の中間試験どんだけ成績上がってるかも怖くてさ。マジで東大受かっちゃうかもな。」이러다 나 진짜로 도쿄대 붙을 것 같(-geos gat)애. (ドラゴン桜)

しかし、例15)のように韓国語では「지도모른다(-ji(do) moleuda)」以外の推測表現が使われる場合もあった。

例16) 「言葉が上手く話せない。それでも、自分の体だから、自分が諦めちゃいけないんだ。18歳。私にだって、私なりの未来があるはず。」나에게도 나만의 미래가 있을 거(-1 geo)야. (1リトルの涙)

一人称の「はず」文は例16)のように話し手の期待を表す文であった。

4.2.2 情報が得やすいと考えられる場合

4.2.2.1 「かもしれない」文

例17) 「もういい加減にしてくれってうんざりしてたんでしょ! ?」 「・ ・ ・ かもしれない。」
 그럴지도 모르(-ji(do) moleu-)겠군. (ガリレオ)

【表13】 日本語母語話者が判断した結果

	自然	不自然
「だろう」	0	15
「はず」	0	15

話し手は「かもしれない」を使った方が間接的で柔らかい表現になるので「かもしれない」を使っていると捉えられる。

例18) 「俺・ ・ ・ お前のこと・ ・ ・ 好き。 ・ ・ ・ なの・ ・ ・ 好きなのかも・ ・ ・ 。 多分。」 나.. 너... 좋아.. 해 좋아하는 걸지도(-jido). (1リトルの涙)

【表14】 日本語母語話者が判断した結果

	自然	不自然
「だろう」	0	15
「はず」	0	15

例18)では全員が「だろう」や「はず」を使うと不自然であると判断した。話し手は聞き手に断言して言うのが恥ずかしくて断定を避けて「かもしれない」を使っていると思われる。

例19) 「以前の俺なら怒ってたかもしれない。でも、その時あっさり、帰化しようって思ったんだ。」 예전의 나라면 화냈겠지(-gess-ji). (スマイル) 例20) 「ちゃんと亮介さんに誤ろうと思っただけでも、君の方が人間的になってるかもしれない。」 「君って言われたの始めて、なんかすぐたい。」 「そう?」 「でもなんかちょっと嬉しいかもね。」 하지 만 웬지 기분 좋은데. (東京湾景)

例19)と20)で韓国語は「ㄹ(-gess)」と断言の表現が使われている。このように、自分の感情であるが、日本語では「かもしれない」が、韓国語では「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」以外の表現が使われる場合があった。

4.2.3ある程度情報が得られると考えられる場合

4.2.3.1 「かもしれない」文

例21) 「その気持ち彼には言えなかった。言っていたら何か変わったのかな。」 「結婚していたかもしれない。」 결혼 했을지도 몰라(-ji(do) molla). (アラウンド40)

【表15】日本語母語話者が判断した結果

	自然	不自然
「だろう」	9	6
「はず」	0	15

例21)では自分に関わることではあるが、「結婚」は自分一人で決めることではないので話し手は自分のことでもある程度の情報しか得られないと考えられる。

4.3二・三人称の場合

4.3.1情報が得にくいと考えられる場合

4.3.1.1 「だろう」文

例22) 「君はひとつだけ間違えた。私は、穂積君を殺していない。」 「彼女は本当に自殺したと?」 「ああ・・・」 「あなたの研究を守る為に?なぜそこまで。」 「君にはわからんだらうね。」 자네는 알 수 없을 거(-1 geo)네. (ガリレオ)

【表16】日本語母語話者が判断した結果

	自然	不自然
「かもしれない」	15	0
「はずだ」	2	13

話し手は聞き手がどう思っているのかを知っていると考えられる情報や根拠は持っていないようで「はず」を使うと不自然な文になると思われるが、韓国語では「ㄴ(-1 geos)」が使われていた。

4.3.1.2 「かもしれない」文

例23) 「お前その話、雫には!？」 「雫にはまだです。でも、彼女には彼女が受け取らないんだったら意味ないですから。」 「好きな相手だと、重いのかもしれませんね。それにこれまでの関係性が崩れるのも、怖いのかもしれない。」 좋아하는 사람이면 부담이 되겠죠(-gess-jyo). 게다가 여태까지의 관계가 깨질까 봐 두렵기도 했을 거(-l geo)고요. (薔薇のない花屋)

【表17】日本語母語話者が判断した結果(重いのかもしれません)

	自然	不自然
「だろう」	4	11
「はず」	0	15

【表18】日本語母語話者が判断した結果(怖いのかもしれない)

	自然	不自然
「だろう」	0	15
「はず」	0	15

例23)は人の考えていることや感じていることについて推測している場面で話し手は情報が得にくくなり、「かもしれない」が使われていると考えられるが、韓国語では「지도모르다(-ji(do)moleuda)」ではなく、「겠지(-gess-ji)」や「ㄱ 것(-l geos)」が使われている。

4.3.2 情報が得やすいと考えられる場面

4.3.2.1 「はず」文

例24) 「どうのことだと思う? 最初は警察に届けるなと言ひ、次は公表せよと言う。」 「あきらかに誘拐犯だ。お前が右往左往するのを見て喜んでいるんだろ。間違いなくお前に恨みを持っているやつの仕業だ。」 「また私! 私のせい! ? 何でもかんでも、私のせいね!」 「何言ってるんだよ。」 「あなただって社会部のデスクでしょう! ? 私以上にうらまれているはずよ。」 나보다 더 원망 받고 있을 거(-l geo)라고. (アンフェア)

【表19】日本語母語話者が判断した結果

	自然	不自然
「だろう」	15	0
「かもしれない」	15	0

犯人は社会の人に恨みがあると仮定して推測している場面であるが、それが真実であれば「あなたは社会部のデスクだから私以上にうらまれている」という判断に対して話し手はかなりの情報を持っていると考えられる。三つの表現とも使えるようであるが、形式によって確信度が異なって話し手が可能性を表わしたり、自分の意見を相手に主張でもしたりする文になると考えられる。韓国語でも「ㄱ짓(-lgeos)」が使われているが、「ㄹ겠(지)(-gess(ji))」を使っても問題はないようである。

例25) 「実は光は、濃度の異なるところに進むと屈折していくんです。しかも、濃度差があればあるほど、屈折率は大きい。だから、光は大きく曲がっていく。」 「知らなかった。」と薫。「でも、これと同じ原理で起こる自然現象は、よく知ってるはずだ。」 「蜃気楼! ?」と薫。「その通り!」 그렇지만 이것과 같은 원리로 일어나는 자연 현상은 잘 알고 있을 겁니다. (가리레오)

【表20】日本語母語話者が判断した結果

	自然	不自然
「だろう」	10	5
「かもしれない」	15	0

聞き手の知識に関わることで聞き手が知っているかどうかは分からないが、判断の命題は一般的に普通の人には知っている自然現象のことなので話し手の中ではかなりの情報を持っていると考えられる。

例26) 「人質の安全を最優先に対処していくつもりです。」 「苑麻君。」 「は。」 「建前はいい。本音を言ってくれ。」 「はい。」 「君たちは崖っぷちだ。今回のテロリスト確保は、君らの悲願のはずだ。そして、その気持ちは私も同じだ。」 이번 테러리스트 섬멸은 자네들의 숙원이다(-ida). (ブラッディマンデー)

また、例26)は話し手は聞き手と同じ仕事をしている上司であると考えられる場面であり、聞き手のことをよく知っているので「はず」を使っていると考えられるが、韓国語では断定をしている場合もあった。

4.3.3ある程度情報が得られると考えられる場合

4.3.3.1 「だろう」文

例27) 「今夜だけ娘さんを預らせて下さいっておうちに電話すればいいんですよ。堀田さんも落ち着いて色々考える時間も必要だろうしね！そうしましょう。」 훗타도 진정하고 이것 저것 생각할 시간도 필요할 거(-l geo)고 그렇게 해요! (鹿男)

【表21】日本語母語話者が判断した結果

	自然	不自然
「かもしれない」	15	0
「はず」	0	15

単なる話し手の中での考え(経験や知識など)に基づいて推測しているとも考えられ、「はず」を使うと不自然な文になると思われる。しかし、韓国語では「ㄷㄹ 거(-l geos)」が使われている。

4.3.3.2 「かもしれない」文

例28) 「好きになっちゃった気持ちには、勝てないものね。」 「ああ。それが男と、」～中略～ 「局長もいろいろあったのかもねー。」 「ああ。ちょっと飲みにも行こうか？」 국장님도 뭔가 여러 가지 있었겠지(-gess-ji). (トップキャスタ)

【表22】日本語母語話者が判断した結果

	自然	不自然
「だろう」	9	6
「はず」	0	15

韓国語では「겠(gess)」が使われ、日本語でも「だろう」が使えないことはないと思われるが、例文では「かもしれない」が使われているところを見ると日本語では直接的な表現を避けているように見える。しかし、日本語に比べると韓国語では直接的な表現を避けているとは見えない。

4.3.3.3 「はず」文

例29) 「娘に、病気のことを話したとき、言われました。どうして私なんだって。～中略～このまま、この学校に、ずっとはいられないことも、娘はわかっているはずです。」 이대로 이 학교에 계속 있을 순 없다는 것도 딸아이는 알고 있을 겁(-l geo)니다.

(1リトルの涙)

【表23】日本語母語話者が判断した結果

	自然	不自然
「だろう」	15	0
「かもしれない」	15	0

第三者の考えていることではあるが、自分の娘のことなので確信することができると思われる、韓国語でも「ㄷ 짓(-l geos)」が使われている。

5. 結論

5.1 推量用法で使われている場合の日本語の三つの形式の共通点

本稿では日本語の三つの形式の用法の中で「推し量る」という用法だけに注目して考察を行ってきた。従って本稿では、日本語の三つの形式は「話し手の推し量るという気持ちを表わす形式であり、推測するための根拠を必要とする形式である」という点で共通していると捉えることにする。

5.2 推量用法で使われている場合の日本語の三つの形式の相違点と韓国語との相違点

情報が得にくい場合には「だろう」や「かもしれない」が使われるが、「はず」は使えないようである。また、判断するのに全く情報や根拠はなく話し手の想像の中で推測する場合は「かもしれない」が使われる。「はず」は話し手がかなりの情報や根拠を持っていなければならないか情報や根拠を得やすい人物でなければならない条件があるようである。この場合に「だろう」や「かもしれない」に置き換えるのは出来るようであるが、そうすると、確信度が低くなり、話し手の発言する意図と異なるようになる可能性がある。また、話し手がある程度の情報や根拠を持っている場合自分の判断を控えめに言いたいときには「かもしれない」が使われ、話し手が聞き手に主張したり、理解させたりする必要がある場面では「かもしれない」より「だろう」が使われる。

韓国語との相違点については、3.2の調査で分かったように韓国語の「ㄷ(-gess)」と「ㄷ 짓(-l geos)」の違いは日本語のように情報が得られるかどうかやどのような状況なのかだけによって区別されるのではなく、話し手がある事柄について推測する気持ちすなわち推し量るというプロセスがどれだけ働くかによって区別されると考えられる。日本語では情報を得にくいと考えられる場面で「はず」が使えないのに対して、韓国語では「ㄷ 짓(-l geos)」が使えるようである。韓国語では情報が得にくい場面であっても話し手は自分の知識や推測した結果のことなどの情報を持っていて、その情報を判断するための命題や根拠とし

て認識すると、「ㄷ 짓(-l geos)」が使えるようである。そのときの情報は話し手が持っている知識や経験による情報はもちろん、話し手の中で少しの情報があってそれに基づいた推測による情報も話し手にとっては確信するまでの情報で捉えることができるようである。これは日本語は間接的な表現を使う傾向があって韓国語では直接的な表現を使う傾向があることを示唆していると言える。

また、「かもしれない」文でも責任を回避するために「かもしれない」が使われている文に韓国語では「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」より確信度が高い形式が使われている。3.1の調査でも分かったように韓国語では責任を回避していないように捉えられる。場合によっては、「지도모르다(-ji(do) moleuda)」より確信度が高い形式を使うことで聞き手のことであるにも関わらずまるで自分のことを言っているように見える恐れがある。「かもしれない」の婉曲用法については対照分析などを含め、今後深い考察が必要である。以上考察してきたのをまとめると以下の【表24】のようになる。

【表24】情報による日本語の三つの形式の違いと各場合に現れる韓国語の形式

		情報が得にくい	情報が得やすい	ある程度の情報が得られる
「 だ ら う 」	事態	初めて出会った場面や話し手が情報を得たばかりの場面や単なる話し手の考えを述べる場合。 「ㄷ 짓(-lgeos)」が多いが、「ㄷ 짓(-lgeos)」も現れている。 「ㄷ 짓(-lgeos)」が多いが、「ㄷ 짓(-lgeos)」も現れている。	話し手はある事態をよく知っている人物(専門家や関係者など)日本語の三つの形式が使える。 「ㄷ 짓(-lgeos)」が多いが、「ㄷ 짓(-lgeos)」も現れている。	日本語の三つの形式が使える。話し手が自分の意見を主張したときは「だろう」や「はず」を使った方が効果的である。 「ㄷ 짓(-lgeos)」が使われている。
	1 人 称	予想出来ない未来 「ㄷ 짓(-lgeos)」	不自然	不自然
	2 ・ 3 人 称	自然(話し手の単なる考えを述べる) 「ㄷ 짓(-lgeos)」が使われているが、「ㄷ 짓(-lgeos)」も現れている。	自然(話し手はかなりの情報を持っていると考えられる) 「ㄷ 짓(-lgeos)」が使われるが、「ㄷ 짓(-lgeos)」も使われると考えられる。	話し手が2・3人称のことをある程度知ることが出来る人物や状況で単なる話し手の考え述べる場合。「かもしれない」は使えるが、「はず」は不自然。 「ㄷ 짓(-lgeos)」が使われるが、「ㄷ 짓(-lgeos)」も使われると考えられる。

「 か も し れ な い 」	事態	根拠のない単なる可能性を表す場合。 「지도모르다(-ji(do)moleuda)」	自然であると考えられ、話し手が婉曲か断定回避を表す場合であると考えられる。	「だろう」も使えるが、婉曲や責任回避を表すためには「かもしれない」が自然である。「지도모르다(-ji(do) moleuda)」より確信度が高い表現も現れている。
	1 人 称	予想出来ない未来 「지도모르다(-ji(do)moleuda)」	自分の感情を表す場合に断定を回避する。 「지도모르다(-ji(do) moleuda)」より確信度が高い表現も現れている。	自分のことではあるが、他の人と関わっていること。「だろう」は使えるが、「はず」は不自然。 「지도모르다(-ji(do) moleuda)」より確信度が高い表現が現れている。
	2 · 3 人 称	自然(単なる可能性を表す) 「지도모르다(-ji(do) moleuda)」より確信度が高い表現も現れている。	自然であると考えられる。	2・3人称のことをある程度知っている人物や状況で話し手が可能性を表す場合。「だろう」は使えるが、「はず」は不自然。 「지도모르다(-ji(do) moleuda)」より確信度が高い表現も現れている。
「 は ず 」	事態	不自然	話し手は専門家やある事態をよく知っている人物。「ㄱ짓(-l geos)」	日本語の三つの形式が使える。話し手はある事態をよく知ることが出来る人物で自分の意見に確信を持っているとき。 「ㄱ짓(-l geos)」
	1 人 称	期待を表す場合。 「ㄱ짓(-l geos)」	不自然	不自然
	2 · 3 人 称	不自然	確信出来るほどの情報や根拠が文で分かる場合。判断の命題が一般的なことの場合。 「ㄱ짓(-l geos)」が多いが、断言の表現も現れている。	自然であると考えられるが、話し手は確信するほどの情報を持つことが出来る場合か、話し手が聞き手のことをよく知ることが出来る人物の場合でなければならない。 「ㄱ짓(-l geos)」

【参考文献】

- 고창운(1991) 「-겠-‘과 -ㄹ 것 이-‘의 용법」 『겨레어문학』 15号pp.595-614
- 김동욱(1999) 「眞偽判断モダリティの日韓対照研究—推量形式の対応關係を中心に—」
『筑波大学大学院博士学位論文』 pp.152
- 金良宣(2004) 「現代日本語における「はずだ」の意味」 『日語日文学研究』
Vol.48pp.81-99
- 羅聖榮(1999) 「日韓推測様相의 対照」 『日本学誌』 19号pp.35-58
- 박현주(2011) 「「겠」과 반어법의 화용적 상관관계에 대한 연구」 『영남대학교대
학원 석사학위논문』 pp.2-5
- 서정수(1996) 『국어문법』 한양대학교출판원
- 이선영(2006) 「한국어 교육을 위한 [추측] 표현 연구」 『서울여자대학교대학원 석
사학위논문』 pp.24-25
- 이순룡(2011) 「한국어 추측 양태 표현에 대한 교육 방안 연구」 『충남대학교대학
원 석사학위논문』 pp.59-60
- 市川保子(2005) 『初級日本語文法と教え方のポイント』 スリーエーネットワーク
- 大島弥生(1993) 「中国語・韓国語話者における日本語のモダリティ習得に関する研
究」 『日本語教育』 81号pp.93-103
- 大鹿薫久(1993) 「「だろう」を述語にもつ文についての覚書き」 『日本文芸研究』
45-3pp.20-34
- 木下りか(1997) 「ハズダの意味分析—他の眞偽判断のモダリティ形式と比較して—」 『日本
語教育』 92号pp.165-176
- 黄钰涵(2006) 「「かもしれない」の婉曲表現としての機能分類について」 『日本語教育研
究』 51号pp.59-67
- 寺村秀夫(1984) 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』 くろしお出版 pp.227、pp.235
- 太田陽子(2005) 「文脈から見たハズダの機能」 『日本語教育』 126号pp.114-123
- 三宅知宏(1995) 「「推量」について」 『国語学』 183集pp.76-86
- 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃(2002) 『モダリティ』 くろしお出版 pp.145

【用例の出典】

「アラウンド40」「アンフェア」「1リットルの涙」「エンジン」「華麗な一族」「ガリレオ」
「クロサギ」「結婚できない男」「氷の世界」「鹿男」「スマイル」「セラー服と機
関銃」「絶対彼氏」「銭ゲバ」「チェンジ」「東京湾景」「トップキャスタ」「ドラ

ゴン桜」「眠れる森」「のだめカンタービレ」「薔薇のない花屋」「パパとムスメの7日間」「ヒーロー」「ブラッディマンデイ」「ブラザフィット」「プロポーズ大作戦」「僕の歩く道」「僕の妹」「ラストフレンド」「離婚弁護士2」「流星の絆」「ルキーズ」 『<http://www.dramanote.com>』 『<http://gomtv.com>』 『<http://www.kmplayer.com>』

要 旨

韓国人日本語学習者が日本語を習う際に難しいとよく言われている推測表現の中では「だろう」「かもしれない」「はず」がある。三つの形式の違いを説明する際に確信度の高低の説明やある根拠に基づいて判断する形式であるという文法説明が多く学習者は理解するのに混乱すると思われる。そこで、三つの形式の本質である推測という観点から同じ推測でありながらどのような点で異なるのかを考察した。また、「だろう」「かもしれない」「はず」とそれらに対応している「ㄹ(-gess)」「지도 모르다(-jido moleuda)」「ㄱ짓(-l geos)」という韓国語の形式を比較して日本語と韓国語の共通点と相違点を考察した。日本のドラマの台本から三つの形式が推量用法で使われている例文を取りだし、考察をする際に話し手は情報が得にくいかわかりやすいか中間であるかによって分類し、さらにある事態についての推測か人についての推測かによって分類した。その結果、日本語の三つの形式は話し手がどれほど情報が得られるのかによって区別されるようである。また、人についての推測では「事柄に関わること」より「内的感情感覚に関わること」について推測しにくくなり、「はず」が使いにくくなるようであるが、いくつかの条件があれば「はず」が使える場面もあった。また、「ㄹ짓(-gess-ji)」と「ㄱ짓(-l geos)」についての調査と対照分析を行った結果、韓国語では「どのような場面(文脈)なのか」や「話し手はどのような根拠を得ることが出来るのか」などよりは話し手がどの程度の確信を持っているのかや話し手の中でどれほど推し量るプロセスが働くかによって判断しているようである。また、韓国語では婉曲や表明・責任回避を表す場合に「지도 모르다(-jido moleuda)」だけでなく、他の推測表現が使われるようである。つまり、韓国語は日本語より間接的な表現を使って婉曲を表したり、表明や責任を回避したりする傾向はないということを示唆していると言える。

キーワード：情報が得やすい 情報が得にくい 事柄に関わることについての推測
内的感情感覚についての推測 推し量るプロセス 直接的 間接的 責任回避

투 고 : 2013. 2. 28
1차 심사 : 2013. 3. 16
2차 심사 : 2013. 4. 6